

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第5号を下記のとおり発表したの送付します。

令和元年度病害虫発生予報第5号

令和元年7月31日
岡山県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち(中生種、晩生種)	—	少
	穂いもち(極早生種、早生種)	—	少
	紋枯病	—	やや多
	白葉枯病	並	並
	穂枯れ(早生種、中生種)	—	並
	ニカメイガ	並	並
	セジロウンカ	—	やや少
	トビイロウンカ	やや早	やや多
	イチモンジセセリ	並	並
	コブノメイガ	やや遅	少
	カメムシ類	—	やや多
ダイズ	べと病	—	やや少
	紫斑病	—	並
	ハスモンヨトウ	—	やや多
モモ	モモハモグリガ	—	少
	ナシヒメシンクイ	—	並
	ハダニ類	—	やや多
ブドウ	さび病	やや早	やや多
	褐斑病	—	並
	べと病	—	やや少
	ブドウトラカミキリ	並	並
	フタテンヒメヨコバイ	並	並

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
キュウリ	べと病	—	並
	うどんこ病	—	並
	褐斑病	—	並
トマト	疫病	並	並
	葉かび病	—	やや少
ダイコン	軟腐病	—	やや少
アブラナ科野菜	キスジノミハムシ	—	やや多
野菜共通	アブラムシ類	—	やや多
	ミナミキイロアザミウマ	—	並
	ハスモンヨトウ	—	やや多
キク	ハダニ類	—	やや少

1 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月24～25日の巡回調査によると、県南部地帯の発生圃場率は16.7%で平年(45.3%)より低かった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、発生をやや抑制する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 葉いもちは穂いもちの伝染源となるので、発生圃場では速やかに薬剤防除を実施する。未発生圃場でも耐病性が弱い品種では初発後の病勢進展が速いので、早期発見に努める。

イ. 不安定な大気の状態で、にわか雨などが続くと病勢が進展する可能性がある。

(2) 穂いもち (極早生種、早生種)

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月23～26日の巡回調査によると、県北部地帯の葉いもちの発生圃場率は0%で平年(15.0%)より低く、中部地帯は25.0%で平年(39.6%)より低かった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 葉いもちが多発するなど穂いもちの多発が予想される場合は、液剤ま

たは粉剤による出穂直前及び穂首出揃期の2回防除に加えて、傾穂期の散布を行う。

イ. 不安定な大気の状態で、にわか雨などが続くと病勢が進展する可能性がある。

(3) 紋枯病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. イネの茎数は、平年よりやや少ない傾向である。

イ. 7月23～26日の巡回調査によると、発生圃場率は21.1%で平年(14.9%)よりやや高かった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、気温が高い場合、発生を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 昨年多発生した圃場では伝染源が多いと考えられるので、圃場をよく観察し、適切に防除を行う。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月23～26日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、特に発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 台風による暴風雨や豪雨による浸冠水は本病の発生を助長し、急激にまん延する場合があるため、豪雨により浸冠水した圃場では、発生状況をよく観察し、適切に防除を行う。

(5) 穂枯れ(ごま葉枯病菌による穂枯れ:早生種、中生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月23～26日の巡回調査によると、県内全域での葉におけるごま葉枯病の発生圃場率は0%で平年(6.4%)より低かった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、気温が高い場合、発生をやや助長する条件となる。

(6) ニカメイガ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、7月5半旬までに誘殺は認め

られず、平年(0頭)並であった。

イ. 7月23～26日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、11頭で平年(61.7頭)より少なかった。

イ. 7月23～26日の巡回調査によると、発生圃場率は31.1%で平年(37.8%)並、すくい取り(20回振り)調査での成幼虫数は3.6頭で平年(29.5頭)より少なかった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生時期 やや早

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、0頭で平年(0.1頭)並であった。

イ. 7月上旬の巡回調査(本田すくい取り)において、県北部の水田でトビイロウンカを確認している(植物防疫情報第4号(7月9日発表参照))。

ウ. 7月23～26日の巡回調査において発生を認めず、発生圃場率は平年(0.1%)並であった。

エ. セジロウンカの飛来量が少なく増殖力が小さい年は、トビイロウンカの増殖と競合しないのでトビイロウンカの増殖率が高まる傾向にある。本年はセジロウンカの飛来量が少なく、現在のところ成幼虫数が平年より少ない(前項すくい取り調査結果参照)ので、トビイロウンカの増殖を助長する条件となっている。

オ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 圃場をよく観察し、要防除水準(成幼虫合計で株当たり10頭以上又は短翅型雌成虫で株当たり0.2頭以上)を超える圃場では、直ちに防除を徹底する。

イ. 本虫は圃場内に局在し、また稲の株元に集中するので、より多くの稲の株元を丁寧に観察する。

(9) イチモンジセセリ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月23～26日の巡回調査によると、発生圃場率は3.3%で平年(4.8%)並であった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月23～26日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（16.3%）より低かった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(11) カメモシ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬のアカスジカスミカメの誘殺数は135頭で平年（555.8頭）より少なかった。また、真庭市の予察灯における7月1～5半旬の誘殺数は、209頭で過去9年間の平均値（82.0頭、参考値）より多かった。

イ. 7月17、26日の県北部イネ科牧草地のすくい取り調査（20回振り）では、アカスジカスミカメの発生量は1地点当たり167.4頭で平年（141.9頭）よりやや多かった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、発生をやや抑制する条件となる。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件ではない。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は419頭で、平年（218.8頭）より多かった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

2 果 樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平年(79.4頭)より少なかった。

イ. 7月24日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(4.1%)より低かった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(2) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は27頭で、平年(39.4頭)より少なかった。

イ. 7月24日の巡回調査によると、発生圃場率は45.4%で平年(41.4%)並であった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(3) ハダニ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月24日の巡回調査によると、発生圃場率は63.6%で平年(37.8%)よりやや高かった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(ブドウ)

(1) さび病

予報内容

発生時期 **やや早**

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月24日の巡回調査によると、発生圃場率は7.1%で、平年(0.0%)より高かった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月25日の県予察圃場での発病葉率は38.7%で平年(44.2%)並であった。

イ. 7月24日の巡回調査によると、発生圃場率は14.3%で平年(15.6%)並であった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(3) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月25日の県予察圃場での発病葉率は0.5%で平年(25.5%)より低かった。

イ. 7月24日の巡回調査によると、発生圃場率は57.1%で平年(57.4%)並であった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、発生をやや抑制する条件である。

防除上の参考事項

ア. ブドウベと病に登録のあるストロビルリン系及び作用点が同一の殺菌剤(アズキシストロビン剤、クレソキシムメチル剤、ファモキサドン剤)に対して感受性が低下した耐性菌が本県の一部で確認されている。本系統の殺菌剤の使用は1作期1回とし、他系統の殺菌剤と組み合わせて使用する。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(5) フタテンヒメヨコバイ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24日の巡回調査によると、発生圃場率は7.1%で平年(2.1%)並であった。

3 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 7月29日の県予察圃場での発病葉率は46.7%で、平年(51.1%)並であった。
- イ. 7月22日の巡回調査によると、発生圃場率は80.0%で平年(68.1%)よりやや高かった。
- ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を抑制する条件となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 7月29日の県予察圃場での発病葉率は21.1%で、平年(23.6%)並であった。
- イ. 7月22日の巡回調査によると、発生圃場率は40.0%で平年(44.9%)並であった。
- ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、発生をやや抑制する条件となる。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 7月29日の県予察圃場での発病葉率は47.3%で平年(19.4%)より高かった。
- イ. 7月22日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%で平年(47.5%)より低かった。
- ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、発生をやや抑制する条件となる。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

- ア. 7月22、25日の巡回調査によると、発生圃場率は11.1%で平年(3.3%)よりやや高かった。
- イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を抑制する条件となる。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 7月22、25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(16.9%)より低かった。
- イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、発生をやや抑制する条件となる。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月25日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平年(33.5%)よりやや低かった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、発生をやや抑制する条件となる。

(アブラナ科野菜)

(1) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月25日の巡回調査によると、ダイコンでの発生圃場率は50.0%で平年(22.0%)よりやや高かった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)の黄色水盤への7月1～5半旬の飛来数は109頭で平年(61.0頭)より多かった。

イ. 7月20、23日の巡回調査によると、トマトでは発生圃場率が100%で平年(36.5%)より高く、キュウリでは20.0%で平年(37.3%)並であった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月22日の巡回調査によると、露地野菜(ナス、キュウリ)での発生量は平年並であった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)のフェロモントラップにおける7月1～5半旬

- の誘殺数は419頭で、平年(218.8頭)より多かった。
- イ. 7月22日の巡回調査によると、ナス、キュウリでは平年同様発生を認めなかった。
 - ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

4 花き類

(キ ク)

(1) ハダニ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 7月22、23日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(7.0%)より低かった。
- イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、 <http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

